

モバイルネットワーク（携帯電話網）の分野で積極的な買収案件が続いている。米国の第3位の携帯電話会社スプリント・ネクステル（現スプリント、以下スプリント）をソフトバンクが買収した案件は、過去最大級の日本企業による海外企業の買収である。そのスプリントが米国第4位のTモバイルUSを買収するかもしれない、というニュースが流れている。

ソフトバンクのスプリントの買収発表から、それほど時間がたたない時期に米国のベライゾン・コミュニケーションズが子会社のペライゾン・ワイヤレスを完全子会社にするため、合併



伊藤元重の

ニュースな見方

携帯電話網に巨額投資

先の英国のボーダフォンから1300億ドルを株を取得すると発表した。これは企業買収案件としては、史上2番目の大型買収となると当時報道されていた。ほぼ同じ時期に、米国のマイクロソフトがフィンランドのノキアの携帯電話事業を72億ドルで買収するというニュースも流れた。

モバイルネットワーク事業に巨額の投資資金が動いている。それだけモバイルネットワークに注目が集まっているということだ。

ネット支配の主導権争い

無線の通信の能力が有線通信の能力に近づいてきたのだ。こうなってくると、有線にはなくて、モバイルネットワークにある強みが生きてくる。24時間身につけることができること、メールの送信速度が格段に速くなった。スマホでも情報が瞬時にやりとりできるようになってきた。そしてクラウドを活用すれば、スマホはさらに大きな威力を発揮する。

個人の認識ができることなるDCMXのカード決済サービスを通じて個人が、スマホを利用して決済運動情報などを集めて、健康管理のアドバイスをする。サービスが出てきている。さて、なぜ多くの資金がこれなどはネットワークに繋がっている個人を携帯機器に関連づけられるから

有線のネットワークとモバイルのネットワークには、大きな違いがある。有線のネットワークは、そのサービスを通じて通信会社が提供していたとしても、その基本は土管と同様といえ、通信サービスを提供する以上の付加価値をつけにくい。しかし、ドコモのネットワークはドコモが支配し、ソフトバンクのネットワークはソフトバンクが支配している。たんなる土管ではない。より威力を強めているモバイルネットワークの主導権を巡って巨額の投資資金が動くのは当然のことかもしれない。

（東大大学院

経済学研究科教授）

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。